



平成31年3月1日

各報道機関 御中

国立大学法人宮崎大学
学長

アルバック機工株式会社  地域未来牽引企業
代表取締役社長

災害時にも使用できる「ポータブル吸引装置」を産学官連携で開発

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学では、地域の産学官が連携して平成22年に策定した「東九州メディカルバレー構想」のもと、これまで、医学部附属病院の医療現場ニーズと、優れた技術を有する地場企業とのマッチングにより、医療機器等の開発に取り組んできました。

この度、本学医学部附属病院救命救急センター（センター長：落合秀信）は、真空ポンプメーカーのアルバック機工株式会社（本社：宮崎県西都市 代表取締役社長：堀越誠司）と共同で、災害時にも使用できる「ポータブル吸引装置」を開発しました。（詳細は別紙をご覧ください。）

本件は、東日本大震災で実際に起きた医療現場の課題を解決する意義深い連携事例であるとともに、地場のものづくり企業の高い技術力・対応力が示された事例です。

つきましては、開発製品について、是非ともアルバック機工株を取材していただきますようお願いいたします。

なお、取材及び報道につきましては、3月4日（月）以降にお願いいたします。

敬具

1. 開発企業

- <企業名> アルバック機工(株)
<住所> 〒881-0037 宮崎県西都市大字茶臼原 291-7
<代表者> 代表取締役 堀越誠司
<事業内容> 小型真空ポンプ・真空機器の製造販売。医療機器の製造。
<連絡先> TEL : 0983-42-1411 FAX : 0983-42-1107
<担当者> ME部 部長 橋本泰弘

2. 概要

通常、病院などの医療機関では、痰の吸引や手術時における血液等の吸引に壁吸引が設備されており、吸引ボトルのアダプターを差し込むことで吸引できる。

しかし、地震などの災害による停電や破損で壁吸引が使えなくなる恐れがある。

実際に 2011年3月11日の東日本大震災では、岩手県釜石市の病院で壁吸引が破損し吸引できなくなった事例が報告されており、本製品を開発するきっかけとなった。

今回開発した「ポータブル吸引装置」は壁吸引と同じ差し込み口を有し、バッテリーを内蔵しているため、吸引ボトルのアダプターを接続することで最大90分間、吸引を継続することができる。

また、コンパクト設計により持ち運びが可能で、災害時のみならず壁吸引を備えていない施設や学校などでの使用も可能であり、壁吸引と同じ差し込み口を有した吸引装置は国内で例がない。

現在、日本国内及び海外7カ国にて特許出願中。アルバック機工株式会社が開発した装置を、宮崎大学医学部附属病院の救命救急センターが臨床評価を行い、2019年夏頃の販売開始を目指している。



病院の壁吸引



ポータブル吸引装置

ポータブル吸引装置資料

1. 病院の壁吸引



通常、吸引ボトルのアダプターを差し込んで使用する

2. 開発したポータブル吸引器



壁吸引の代わりにポータブル吸引装置に吸引ボトルのアダプターを差し込んで使用する